

震災アーカイブの利活用

復興計画における震災アーカイブ

仙台市震災復興計画では、以下の取組みを実施することとしている

○震災の記録の集積と活用

- ・震災による被災状況や震災からの復旧・復興のプロセスを市民や専門家等との協働により記録・保存し、集積されたデータの幅広い活用を図る

○メモリアル施設の整備

- ・震災の記録と復興を後世に継承するためのアーカイブや情報発信のための拠点を整備

○絆と協働による復興の仕組みづくり

- ・震災の記憶をとどめ、仙台・東北の復興の姿を広く発信する仕組みをつくり、未来の仙台を支える子どもたちをはじめとする幅広い市民との協働により推進

(参考) 第1回検討委員会で委員の皆様から出された意見

- 震災の記憶を後世に伝える
- 実際の災害の状況を伝える
- 震災から学んだことは何かを外の方たちに伝える
- 助け合いの精神の継承
- 東部沿岸地域の暮らしの掘り起こし

- 東北にいなかった方々と被災者が共に歩むための仕掛け
- 仙台から内外に発信するためのメモリアル
- 震災の記憶を次の世代に継ぐ仕組み
- 過去の津波被害を長く語り継ぐ仕掛け
- 思いを継続させる仕組み
- 学びにつなげる手段
- ストーリーを伝えるための語り、思い出

震災アーカイブの視点

① アーカイブの対象

A 歴史・地域の営み

- ・過去の津波被害の歴史
- ・被災地域の暮らし、地域文化、歴史 etc

B 震災の状況

- ・津波・地震の猛威、各地の被害の状況 etc

C 震災後の活動

- ・避難所、各家庭での状況
- ・ライフライン、エネルギー等の途絶
- ・地域、NPO、企業、ボランティア等の取組み etc

D 復旧・復興の取組み

- ・がれき対策、ライフライン、エネルギーの復旧
- ・避難所から仮設、自宅へ
- ・経済活動の再生、心の復興
- ・各種復興事業 etc

② アーカイブの活用

アーカイブを活用し、どのような教訓・メッセージを発信していくのか

アーカイブに関する取り組み（行政機関）

3がつ11にちをわすれないためにセンター （せんだいメディアテーク）

取り組みの目的

東日本大震災に対し、ともに向き合い考え、復興への長い道のりを歩きだすため。

対 象

C 震災後の活動



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

3がつ11にちをわすれないためにセンター

（せんだいメディアテーク）

活動の概要

i) 収集の方法

市民、専門家、センタースタッフが協働で、復旧・復興にかかるプロセスを独自に発信、記録していくプラットフォーム
記録された映像、写真、音声、テキストなど様々なデータを「震災の記録・市民協働アーカイブ」として収集

ii) 対象の活用、発信手法

記録はウェブサイトで公開し、館内外での上映会や対話の場で利用

一部の映像は2階映像音響視聴覚教材ライブラリーにDVDとして配架



3がつ11にちをわすれないためにセンター

発信はさまざまな支援活動を広げ、記録は未来の財産となるように。

にほんご

English

search

ごうけいほうもんしゃゆう

すべてのコンテンツ

しゃしんとときじ

えいぞろ

おと

タイムライン

ちずである

シリーズ



歩いている途中はこんなに酷い地震だという感覚がなかった

3.11定点観測写真アーカイブプロジェクト
公開サロン
「みつける、あの日からの風景」@考えるテーブル 2012年9月22日

語り手: 中西百合さん / 進行・聞き手: 佐藤正実さん(NPO法人20世紀アーカイブ仙台) ■前編
たアバド棟 2011年3月11日 仙台市青葉区旭ヶ丘 [中西さん(以下、中)]この日は旭ヶ丘にある仙台市青年文化センター(現

> Read More

3.1 1 震災文庫（仙台市市民図書館）

取り組みの目的

震災からの復興や生活再建を支援するため。

対象

C 震災後の活動

The screenshot shows the website for Sendai City Library (仙台市図書館). The page is titled "「3.11 震災文庫」への記録・資料の寄贈にご協力ください" (Please cooperate with the recording and donation of materials to the '3.11 Disaster Library'). The page features a navigation menu on the left with items like "図書館ガイド" (Library Guide), "利用案内" (Usage Information), "各図書館の案内" (Information for each library), "図書館カレンダー" (Library Calendar), "申込書ダウンロード" (Download application form), and "よくある質問・FAQ" (Frequently asked questions). The main content area includes a search bar, a "お問い合わせの多い資料" (Frequently asked questions about materials) section, and a detailed call to action for donations. The text explains that the library is collecting materials related to the 2011 Great East Japan Earthquake to support recovery and reconstruction, and is seeking donations from citizens and organizations.

仙台市図書館 SENDAI CITY LIBRARY

トップページ > お問い合わせの多い資料 > 「3.11 震災文庫」への記録・資料の寄贈にご協力ください

お問い合わせの多い資料

「3.11 震災文庫」への記録・資料の寄贈にご協力ください

仙台市民図書館では、東日本大震災の記憶や記録を後世に伝えるとともに、震災からの復興や生活再建を支援するため、震災後の5月から震災に関する書籍や新聞、行政資料、さらに震災発生当時から現在までのさまざまな資料を収集し、市民の皆さまに利用していただいています。

このたび、これを「3.11 震災文庫」として、さらに資料の充実を図り、市民の皆さまに幅広く提供を呼びかけていきます。特に収集が困難な民間の企業や団体(グループ)、個人の方などが作成された資料について、「3.11 震災文庫」への寄贈にぜひご協力をお願いします。

震災関連資料検索については [こちら](#)

3.1 1 震災文庫（仙台市市民図書館）

活動の概要

i) 収集の方法

震災後のH23年5月から震災に関する書籍や新聞、行政資料、その他様々な資料を、購入・寄付などにより収集。

ii) 対象の活用、発信手法

市民図書館内に専用コーナーを設置し、市民等に情報発信。



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

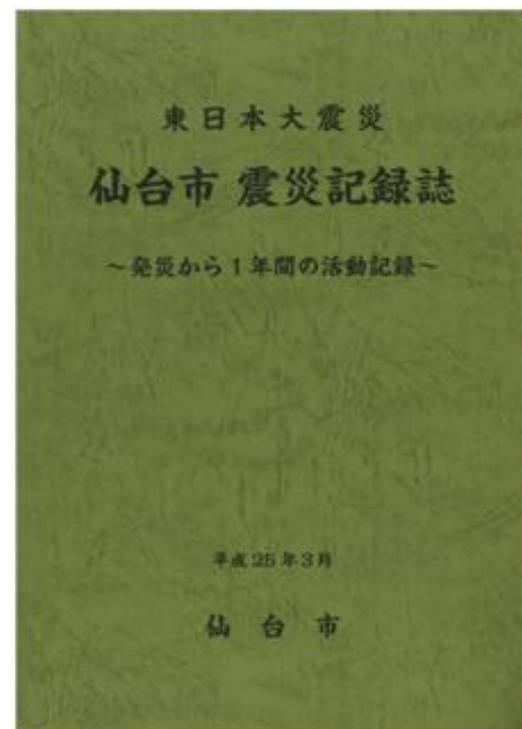
仙台市震災記録誌（仙台市復興事業局震災復興室）

取り組みの目的

行政に関する震災対応の「記録」を残し、地域防災計画や事業継続計画（BCP）等への反映など、「次に備える」「他自治体に伝える」ため

対 象

- B 震災の状況
- C 震災後の活動
- D 復旧・復興の取り組み



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

仙台市震災記録誌（仙台市復興事業局震災復興室）

活動の概要

i) 収集の方法

発災直後からの仙台市役所の活動、被害状況や発災後の応急活動、生活復旧、復興へ向けた取り組み等について、庁内関係課へのヒヤリングなどにより、収集し、記録。

ii) 対象の活用、発信手法

本・DVDを作成し、全国の自治体、国、関係団体、支援団体へ送付。

第7章 住環境の改善

1. プレハブ仮設住宅の改善工事

(1) 課題の発生における背景

プレハブ仮設住宅に入居した被災者は実際に生活を始める上で様々な苦悩を経験することもあり、居住環境の改善を求めさまざまな要望が出された。例えば、空間にひびきがなく雨の音の出入時に聞かれてしまう、玄関の扉音が大きく足音の音が響き高層階などによっては大変である、敷地内の水はけが悪くすぐに水溜りになってしまう、冬の寒さ対策が必要であるなど、さまざまな要望があった。

それらの対応策として、壁、天井、床下の断熱対策、トイレの給排水配線の改修など、建設時には対応できていなかったことや想定していなかったことを改善する必要が生じた。

(2) 改善工事の実施

居住環境の改善に関しては、追加工事にかかる必要経費は原則、災害救助法の応急仮設住宅の費用として国庫補助の対象となるが、壁上げ仮設住宅等一部は民間賃貸住宅等の他の応急仮設住宅との支障に格差が生じないように配慮しつつ、できる限り対応した。また、改善工事にあたっては県が対応するものと市町が対応するものがあることから、県と協議を行い、連携をとりながら進めた。

県が実施することにより速やかな対応ができる住宅の構造を中心とした外壁への断熱材等の追加・補修工事、窓の二重サッシ化工事、玄関への断熱改修、ひさしの延長工事、トイレの給排水配線工事、道路、駐車場の舗装および排水用側溝の整備工事などは、県が一括してプレハブ建築協会を通じて建設業者に発注することとした。このうち、経本町の断熱と排水用側溝の整備工事については、入居者より迅速な対応を求められたことから、一部のプレハ

ブ仮設住宅団体においては県に代わり本市が実施した。

また、集会所へのエアコン設置工事や玄関の段差解消工事、浴室への改修工事、呼び鈴の追加工事等、プレハブ仮設住宅への大規模な工事が必要としない工事についてはすべて本市が実施したほか、大規模からの応急改善の要望があった住戸間の壁を取り払い2戸の住戸を1戸とする工事についても本市が行った。

なお、改善工事は、全てが平成23年度において国庫負担の対象になるが、次年度に押し繰り上がったため、業者も急である中、優先順位等を考慮して工事が行われた。

しかし、入居後の追加工事は、入居者の意向によるため、個々の意向確認をしながらの施工になったこと、入居者の立会い日程が調整できなかったことなど、施工完了まで多く時間を要した。

写真 プレハブ仮設住宅の風除室



2. 集会所等の設置

災害救助法では、プレハブ仮設住宅を同一敷地内等におおむね50戸以上設置した場合に集会所の設置が認められている。本市では集会所を50戸以上のプレハブ仮設住宅がある場所に建設し、その他の場所には集会所よりも規模の小さい公民館を建設した。ただし、同一用地内にある若林目辺グラウンドと若林目辺グラウンド多目

的広場においては既存のクラブハウスを集会所としたが、クラブハウスには和室がなかったため、それぞれに談話室を建設した。

3. 壁上げ民間賃貸住宅における環境改善
壁上げ民間賃貸住宅については、発災が被災者の入居開始日より新たに整備する附帯設備が国庫負担の対象となった。対象となる設備は、エアコン、ガスコンロ、照明器具、給湯器、カーテン等、防災の観点に基づき県が支払った。なお、エアコンと給湯器は途中から正式に認められた。

アーカイブに関する取り組み（行政機関）

東日本大震災 1年の記録 とともに前へ仙台

（仙台市総務企画局広報課）

取り組みの目的

震災の脅威と、復興へ向かう仙台の今の姿をビジュアルで伝える。

対 象

- B 震災の状況
- C 震災後の活動
- D 復旧・復興の取り組み



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

東日本大震災 1年の記録 とともに前へ仙台

（仙台市総務企画局広報課）

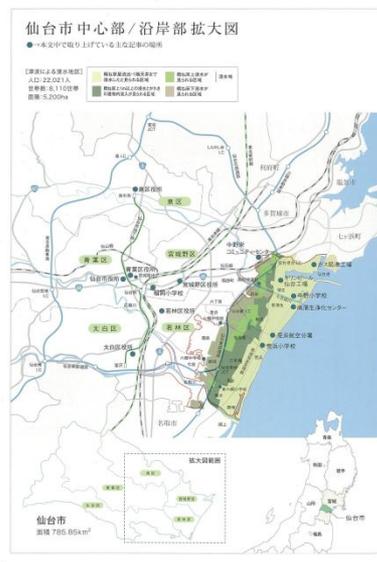
活動の概要

i) 収集の方法

発災直後から、1年間の動きについて、関係者への体験談の取材内容や、関係機関などから提供された写真等を記録。

ii) 対象の活用、発信手法

本を作成し、各情報センターで販売。（1部1000円）



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

フォトアーカイブ 東日本大震災 仙台復興のキセキ （仙台市総務企画局広報課）

取り組みの目的

未曾有の大災害による被害状況、そして、国内外から寄せられる温かい支援を力に、厳しい試練を乗り越えて復興へと歩み続ける仙台のまちの姿を、写真で綴り、震災の記憶や復旧・復興の取り組みを伝える。

対象

- B 震災の状況
- C 震災後の活動
- D 復旧・復興の取り組み



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

フォトアーカイブ 東日本大震災 仙台復興のキセキ （仙台市総務企画局広報課）

活動の概要

i) 収集の方法

「東日本大震災1年の記録」とともに、「前へ仙台」を作成する際に収集した写真や、震災時に職員が撮影した写真を画像データ化。

ii) 対象の活用、発信手法 仙台市ホームページ内で公開。



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

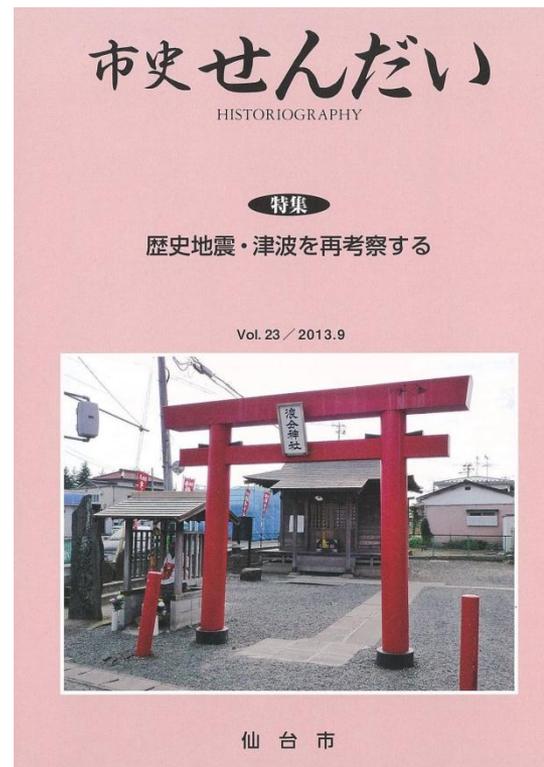
市史 せんだい（仙台市博物館市史編さん室）

取り組みの目的

十分な議論の蓄積なしに特定の説が固定化する状況に、以前から疑念を有していたこともあり、まだ検討を加えるべき所も残されているが、慶長地震をめぐる議論の問題点を明らかにすることを目的として特集で取り上げた。

対 象

A 歴史・地域の営み



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

市史 せんだい（仙台市博物館市史編さん室）

活動の概要

i) 収集の方法

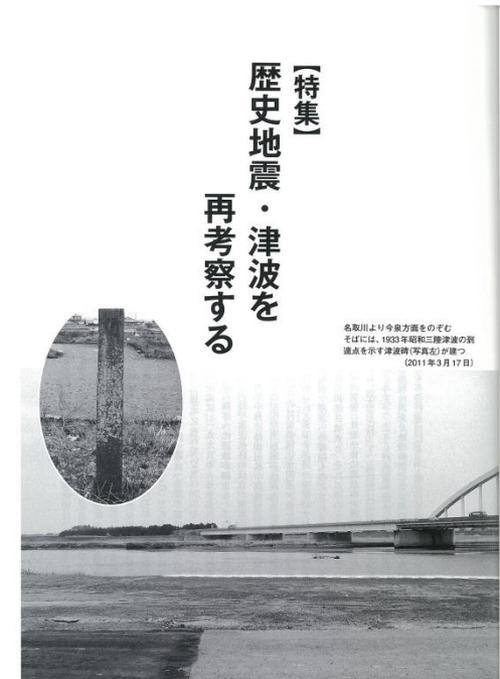
仙台市博物館が定期的に発行。

Vol.23 特集「歴史地震・津波を再考察する」

ii) 対象の活用、発信手法

仙台市博物館内売店で販売。

（1部500円）



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

RE：プロジェクト

（公益財団法人 仙台市市民文化事業団）

取り組みの目的

津波により被災した地域の暮らしや文化、伝統を後世に伝える

対 象

A 歴史・地域の営み

ここはどういう場所で、どんな暮らしがあったのだろうか
地域資源を再発見／再認識／再考する



〈主催〉仙台市・公益財団法人仙台市市民文化事業団

アーカイブに関する取り組み（行政機関）

RE：プロジェクト

（公益財団法人 仙台市市民文化事業団）

活動の概要

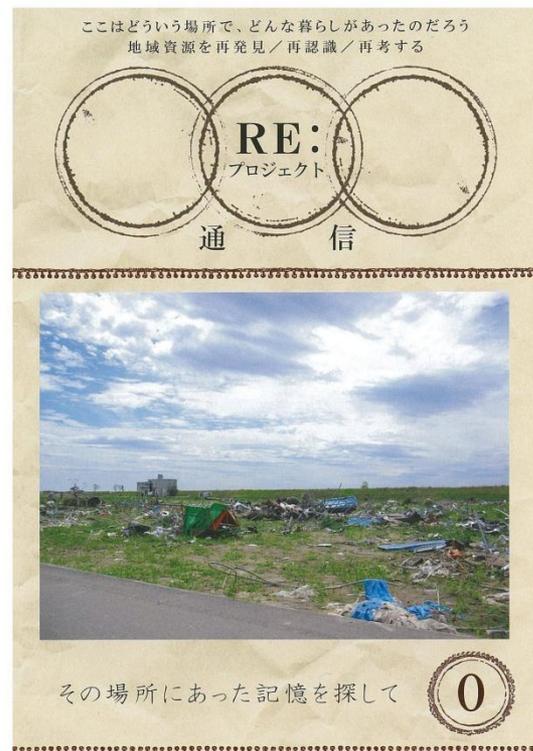
i) 収集の方法

市民文化事業団事業として、関係者への体験談などを直接取材により収集

ii) 対象の活用、発信手法

フリーペーパー

「RE：プロジェクト通信」
の発行配布及び、Webにより公開。



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

ひなぎく NDL東日本大震災アーカイブ（国立国会図書館）

取り組みの目的

東日本大震災に関する記録・教訓を次の世代へ伝え、被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策に役立てる

対 象

- B 震災の状況
- C 震災後の活動
- D 復旧・復興への取り組み



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

ひなぎく NDL東日本大震災アーカイブ（国立国会図書館）

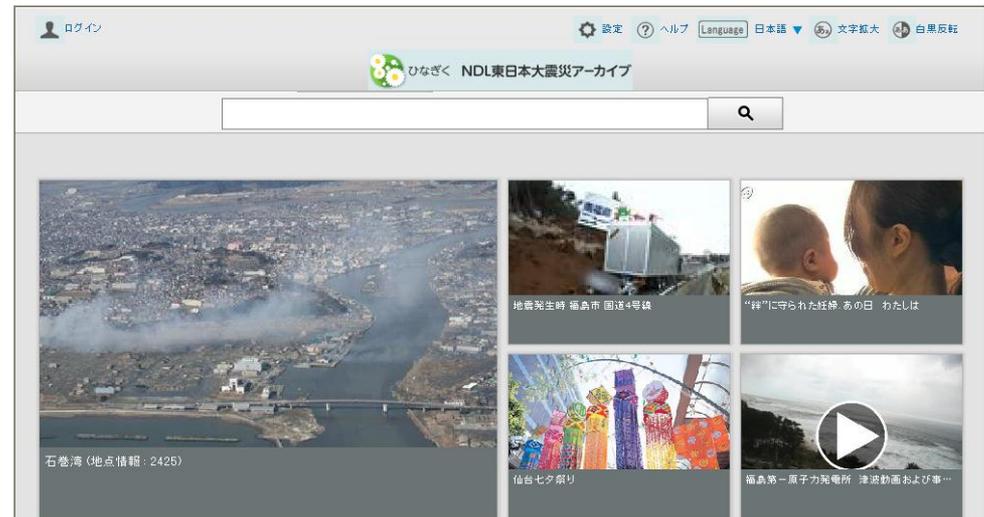
活動の概要

i) 収集の方法

国立国会図書館が、公的機関、民間団体、報道機関や、大学、学会、研究機関など様々な機関・団体と協力して、東日本大震災の記録を国全体で収集・保存。

ii) 対象の活用、発信手法

参加団体が収集した資料を一元的に検索ができるポータルサイトとしてWebで公開。



震災伝承館（東北地方整備局）

取り組みの目的

同じ悲劇を繰り返さないことを願い、この被災経験・教訓を活かすための記録を作成。

対 象

- B 震災の状況
- C 震災後の活動
- D 復旧・復興への取り組み



アーカイブに関する取り組み（行政機関）

震災伝承館（東北地方整備局）

活動の概要

i) 収集の方法

国土交通省東北地方整備局が、自ら撮影したもののほか、市町村や建設関係業界などの協力を得て収集。

ii) 対象の活用、発信手法
発災直後から時系列毎にわかりやすいキーワードを準備しWebにより公開。



みちのく震録伝（東北大学）

取り組みの目的

国内外や未来に共有する東日本大震災アーカイブプロジェクト

対象

- A 歴史・地域の営み
- B 震災の状況



お問い合わせ | サイトマップ

トップ | みちのく震録伝 | シンポジウム・報告会 | コンテンツ | 賛同・協力/パートナー | みちのくいまをつたえ隊

かたりつぎ ～朗読と音楽の夕べ～
語りつぐ記憶を、俳優竹下景子が音楽とともに語る企画です。実際の体験が生き生きと語り継がれ、これからの防災・減災教育に役立てられるとともに、震災を巡る様々な物語の《語り部隊》を育成するプロジェクトです。

「東日本大震災アーカイブシンポジウム」開催します
2013年1月11日、仙台国際センターにて「東日本大震災アーカイブシンポジウム」ー過去と現在の記憶・記録を未来へ伝えるためにーを開催します。ご参加いただける方は、こちらまで

七郷市民センターでボランティアを募集しています
七郷市民センターでは、ボランティア活動コーナーを常設しました。聞き取ったことを文章へ落とし込む作業に協力していただけるボランティアを募集中です。

みちのく震録伝（東北大学）

活動の概要

i) 収集の方法

東北大学災害科学国際研究所が、産学官の機関と連携して、東日本大震災に関するあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集

ii) 対象の活用、発信手法

分野横断的な研究を展開し、東日本大震災の実態の解明や復興に資する知見の提供を進める。

低頻度巨大災害の対策・管理の学問を進展し、今後発生が懸念される東海・東南海・南海地震への対策に活用。



東日本大震災の記録 Remembering 3.11（東北学院大学）

取り組みの目的

後世の防災・災害対策など、将来的な活用に資することを目的とする。

対 象

A 歴史・地域の営み

B 震災の状況

The screenshot shows the top portion of a website. At the top right, there are links for 'お問い合わせ' (Contact), 'サイトマップ' (Site Map), and a logo for '学校法人 東北学院' (Hokkai Gakuin University). Below these is a navigation bar with four items: 'アーカイブについて' (About the Archive), '記録の収集' (Record Collection), '資料のご紹介' (Introduction to Materials), and '東日本大震災の概要' (Overview of the Great East Japan Earthquake). The main content area features a blue sky background with the text '学校法人 東北学院 デジタルアーカイブ' (Digital Archive of Hokkai Gakuin University), '東日本大震災の記録' (Records of the Great East Japan Earthquake), and 'Remembering 3.11'. At the bottom, there is a search bar with the text 'キーワードで検索' (Search by keyword) and a magnifying glass icon, and a blue button with a play icon and the text '時系列で見る' (View by timeline).

東日本大震災の記録 *Remembering 3.11*（東北学院大学）

活動の概要

i) 収集の方法

東北学院大学が、東日本大震災の被害の状況及び復旧に関わる資料を集約・保存。

ii) 対象の活用、発信手法

震災直後に作成・配布された手書きメモ等を含む資料や、復旧作業記録・震災に関わる各種活動記録など、非常に貴重な「生きた情報」をデジタル化し永久保存が可能な形式に整え広く社会に提供。

The screenshot shows the website interface for 'Remembering 3.11'. At the top, there are navigation links for 'お問い合わせ' (Contact Us), 'サイトマップ' (Site Map), and '学校法人 東北学院' (Seibei Gakuin University). Below this is a menu with 'アーカイブについて' (About the Archive), '記録の収集' (Collection of Records), '資料のご紹介' (Introduction to Materials), and '東日本大震災の概要' (Overview of the Great East Japan Earthquake). The main content area is titled '資料のご紹介' and shows a search result for '仙台市' (Sendai City) on '2011年4月8日(金)12:16 場所:学外' (April 8, 2011, 12:16 PM, Location: Outside Campus). Three photographs are displayed, each with a caption: '仙台 2011.04.08 12:24', '仙台 2011.04.08 12:24', and '仙台 2011.04.08 12:24'. On the right side, there is a '時系列で見る' (View by Time Line) button and a search bar with a '検索する' (Search) button. Below the search bar, there are filters for '土種' (Soil Type), '泉' (Spring), '多賀城' (Takahagi), '中・高' (Middle/High School), '幼稚園' (Nursery), and '学外' (Outside Campus). At the bottom right, there are two large buttons with the number '3.11' and the text '東日本大震災 東北学院 1年の記録' (Great East Japan Earthquake, Seibei Gakuin, 1 Year of Records) and '調査・研究及び 専門知識を活かした支援活動' (Investigation, Research, and Support Activities Utilizing Specialized Knowledge).

アーカイブに関する取り組み（大学・民間企業等）

震災アーカイブ（河北新報社）

取り組みの目的

被災地にある新聞社として、震災の教訓が語り継がれ、今後の防災・減災に少しでも役立たせることを目的とする。

対 象

- A 歴史・地域の営み
- B 震災の状況
- C 震災後の活動

河北新報 震災アーカイブ

English

> 新聞記事・写真を
Google Earthで見る

> 新聞記事・写真を
Google Mapで見る

> 写真・関連記事を検索する

> 写真・動画を提供する

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、わたしたちのふるさと東北に、甚大な被害を与えました。

河北新報社は、被災地にある新聞社として「1000年に一度」とも言われる大震災を後世に伝える国の「東日本大震災アーカイブ」プロジェクトに参加し、東北大学災害科学国際研究所の支援協力のもと、このアーカイブサイトを立ち上げました。

新聞記事や報道写真のほか、市民の皆様が撮影した貴重な写真や動画なども収集・保存・整理し、可能な限り順次公開していきます。震災の教訓が語り継がれ、今後の防災・減災に少しでも役立つように、多くの皆様が利用しやすいサイトづくりを目指してまいります。どうぞ、よろしくお願いたします。

2013年1月17日 河北新報社

震災アーカイブ（河北新報社）

活動の概要

i) 収集の方法

河北新報社の記者、カメラマンが撮影した写真、市民より提供された写真等のほか、過去の震災に関連した新聞記事の見出しを収集・保存。

ii) 対象の活用、発信手法 Webにより公開。

The screenshot displays the '河北新報 震災アーカイブ' (Hebei Shinbun Earthquake Archive) website. The search results are for the date '2011-03-11' in the city of '仙台市' (Sendai City). The results show a grid of image thumbnails with captions and dates. The first three thumbnails are labeled '大地震直後の道路、液状化現象か' (Roads immediately after the earthquake, liquefaction phenomenon?) and are dated '2011-03-11'. Other thumbnails include 'TheMall仙台長町' (TheMall Sendai Nagamachi), '仙台市のデパートでは、地震直後に買い物客が出入り口に投擲。' (In Sendai City department stores, shoppers threw items at the entrance after the earthquake.), '河北新報社投稿サイト/ 振来への記憶' (Hebei Shinbun投稿サイト/ Memories of the earthquake), and '仙台市青葉通 藤巻デパート前の歩道に散らばるガラスの破片' (Glass shards scattered on the sidewalk in front of Fujimaki Department Store, Aomori Ward, Sendai City), dated '2011-03-11'.

「3.11」市民が撮った震災記録Web

(NPO法人 20世紀アーカイブ仙台)

取り組みの目的

震災を風化させることなく「市民が記録した写真を後世に残す」

対 象

- A 歴史・地域の営み
- C 震災後の活動
- D 復旧・復興の
取組み



「3.11」市民が撮った震災記録Web

（NPO法人 20世紀アーカイブ仙台）

活動の概要

i) 収集の方法

市民の方にインターネット上で画像提供を呼びかけ。

ii) 対象の活用、発信手法

震災の記録写真を撮影した市民の方々をゲストに迎え、震災によって、身近な暮らしがどのように変わったのか、市民が撮影した写真を見ながら、当時の体験や考えた事をご本人に紹介していただく。

また会場にお越しの方にも、当時の暮らしの様子などをお話ししていただき、震災を体験していない人々に震災をどのように伝えていくのかを一緒に考える場として公開サロンを開催



3.11定点観測写真アーカイブ・プロジェクト公開サロン

3.11メモリアルプロジェクト（一般社団法人 MMIX Lab）

取り組みの目的

津波により被災した標識などの現物を中心に収集し、展示などを行うことにより、津波の猛威を後世に伝える。

対 象

B 震災の状況

3.11メモリアルプロジェクト 3.11 Memorial Project（のこす）

場所：宮城県仙台市内 被災沿岸域（参考写真上：宮城県石巻市／下：宮城県七ヶ浜町）



期間： 2011年4月～ ※長期的、半永久的なメモリアル展示・保存を目的とした活動。

3.11メモリアルプロジェクト（一般社団法人 MMIX Lab）

活動の概要

i) 収集の方法

被災地に赴き、がれき撤去の対象（既に本来の価値を有しなくなり、廃棄物として撤去されることがあきらかながれき等）で、かつ、道路標識等、元の所有者・管理者が公的機関のものであるものを中心に収集。

ii) 対象の活用、発信手法

収集した現物を国内外のイベントなどで展示



アーカイブに関する取り組み（大学・民間企業等）

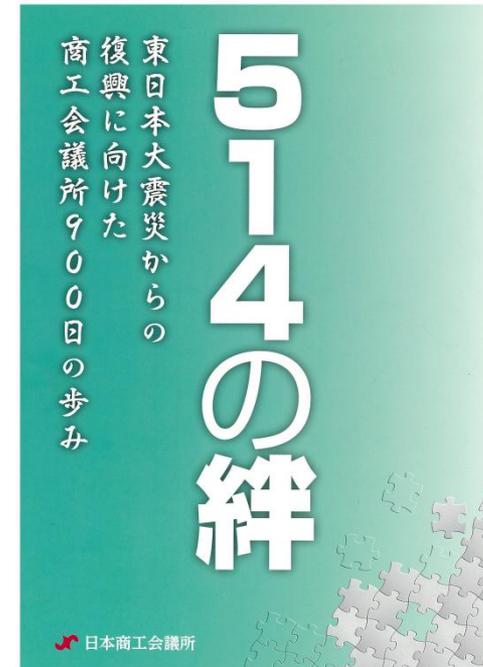
514の絆 東日本大震災からの復興に向けた商工会議所900日の歩み （日本商工会議所）

取り組みの目的

1日も早い復旧・復興が強く望まれる中、全国514商工会議所と日本商工会議所は、様々な取り組み、支援活動を行ってきた。こうした震災後900日の取り組みを紹介するとともに、被災地の状況と今後の課題について伝える。

対 象

- B 震災の状況
- C 震災後の活動
- D 復旧・復興の取組み



514の絆 東日本大震災からの復興に向けた商工会議所900日の歩み (日本商工会議所)

活動の概要

i) 収集の方法

各商工会議所職員により撮影した写真や、関係機関から提供。

ii) 対象の活用、発信手法 行政機関などの関係機関 への配付

東北六県商工会議所連合会・会長
(山形商工会議所・会長)
鎌田宏

震災の経験 を国内外の 皆さんに伝えたい



◆のまゝ・ひらし
1947（昭和22）年生まれ。2010（平成22）年11月、山形県商工会議所会頭、東北六県商工会議所連合会会長、議長、専務、専任役員として77歳で就任された。

インタビュー

「東日本大震災の経験は、国内外の皆さんに伝えたい。被災地の復興支援や、防災意識の向上に貢献したい。被災地の復興支援や、防災意識の向上に貢献したい。被災地の復興支援や、防災意識の向上に貢献したい。」



アーカイブの課題

- ① 特にA・B・Cの領域の資料は、時間の経過及び復旧・復興の進捗に伴い減少する。
- ② 各当事者の保有する資料の共有ができない
 - ・プラットフォーム機能 著作権・肖像権等の問題
- ③ 今後、アーカイブをどのように活用していくべきか？
 - ・市民、各種団体との役割分担
 - ・防災教育（学校教育、地域や市民の防災意識の涵養）
 - ・都市としての防災力の向上と教訓の発信
 - ・市民防災力（自助・共助）の向上
 - ・震災観光も視野に入れた「防災都市 仙台」の発信

論 点

- ① 市として、今後自ら取組むべき事業は何か？
- ② 市民の記録を継続的に収集、記録、保存していくことについて、市民協働で進めるために市が担うべき役割は何か？
- ③ 域外への発信・プラットフォーム・後世に震災の記録を伝えるために必要な仕掛けはどのようなものか？
 - 1) 市民の「学び」につなげる仕組み・仕掛けとして、「どのような」仕組み・仕掛けが必要か？
 - 2) 域外への発信するための仕掛け・仕組みにはどのようなものが考えられるか？